

平成28年度 吹田市地域自立支援協議会

専門部会報告書

【部会名： 相談支援部会】

1 これまで検討した課題への取組みについて

※相談支援部会では、乳幼児期から就学、就労等ライフステージにおいて、支援機関等が変わることで、本人の情報が途切れないようにするとともに、関係機関において情報が共有され、一貫した支援が提供される仕組み作りをすすめています。

(1)

課題	ライフステージに関わらず、本人の情報が途切れない支援について
取組み	こども発達支援センターの地域支援センター、指導室との聞き取りを通じて学齢期における障がい児の引継ぎや支援の在り方について課題整理を行った。
評価	就学前から学齢期まで一貫した相談支援体制及び、療育の視点を取り入れた支援をしていくことが必要である。 ※別紙参照のこと

(2)

課題	家族や学校関係者に相談支援事業所の情報が伝わっていない。
取組み	こども向けのリーフレットづくり、スクールソーシャルワーカーとの懇談会を実施。
評価	学校での支援がどのように行われているか、お互いの交流が必要であることが確認できた。

2 部会の構成メンバー

機 関	団体名	担当者（☆部会長）
特定相談支援事業所	シード	☆山口
	生活支援センターあおぞら	柏木
	障害児・者地域生活支援センターめい	仁木
	すいた自立支援センターねばーらんど	向
	地域生活支援センター北千里以和貴	稲葉
就業・生活支援センター	すいた就業・生活支援センター	井上・豊田
吹田市	基幹相談支援センター	景山
	障がい福祉室	嘉儀
	千里ニュータウン地域保健福祉センター	愛宕
	亥の子谷地域保健福祉センタ	野口

	ー	
	内本町地域保健福祉センター	荒木
大阪府	大阪府自立相談支援センター	田中

3 開催状況

月 1 回 第 2 火曜日

4 今後の予定

部会としての在り方検討。

【部会名：居住支援部会】

1 これまで検討した課題への取組みについて

(1)

課題	消防法改正における、グループホームの自火報・スプリンクラー整備課題。
取組み	○部会で担当を決めて(消防プロジェクト)、市内全グループホーム対象のスプリンクラー・アンケートを行い、課題の整理を行う。 ○11/8 に吹田市消防署予防課との懇談を行う。★別紙 報告書あり。
評価	○プロジェクトや調査活動は実態把握が出来て非常に良かったが、消防との話し合いについては、なかなか厳しいものがあつた。グループホームは担当者が 24 時間の縛りがある為、じっくりと時間をかけて準備することが厳しい側面がある。

(2)

課題	高齢期を迎えての介護保険課題。グループホーム等の地域生活をどう進めるか。
取組み	今年度中には、見学会を受けての検討を進めることが厳しかった。
評価	他の大きな課題の調整や、冬場に入ると感染症もあるので特別養護老人ホーム見学も厳しいので、あまり焦らずにじっくりと検討していく必要。

(3)

課題	グループホームを増やす為にも、支援職員をどう確保して育成していくか。
取組み	同じく、今年度中の検討が出来ず。
評価	来年度の良い時期に就職セミナーを計画して行っていく。

2 部会の構成メンバー

機 関	団体名	担当者 (☆部会長)
市内全グループホーム担当	18 事業所	毎回、12-15 名程の参加
グループホーム	さつき福祉会ホーム事務局	☆世話人代表 伊藤成康

相談支援・グループホーム	ぶくぶく福祉会ネバーランド	世話人 足立雅美
グループホーム	のぞみ福祉会エスペランサ	世話人 中山恭子
相談支援	さつき福祉会あおぞら	世話人 西沢富子
グループホーム	NPO 法人ニゲラ	世話人 水谷充規

3 開催状況

- 第 31 回部会 2016 年 5 月 27 日 消防課題の検討と消防課題プロジェクトの確認
- 第 32 回部会 2016 年 7 月 22 日 消防アンケートの確認
- 第 33 回部会 2016 年 9 月 30 日 消防アンケートの中間まとめと予防課懇談の内容検討
- 吹田市消防署予防課との懇談会 11 月 8 日
- 第 34 回部会 2016 年 11 月 18 日 地域生活拠点「みんなのき」見学
- 第 35 回部会 2016 年 1 月 13 日 消防スプリンクラー課題と対応策について
- 第 36 回部会 2016 年 3 月 24 日 予定 「地域の単身生活者の生活実態報告」を受けて検討

4 今後の予定(当面)

- 引き続き、スプリンクラー問題を検討進めていく。しかし、行政(市長・福祉部・消防・議会)への直接アプローチについては「福祉と医療を進める会」と「グループホーム連絡会」が担う。
- 3 月はスプリンクラー課題と単身生活者課題の検討のスタート(国の自立生活支援事業の検討)
- 5 月に高齢課題で、特別養護老人ホーム「高寿園」見学と介護保険の課題検討。ここで出てきた検討課題や成果は、今後、「高齢プロジェクト」に反映させていく。
- 7 月に暮らしのスタッフの就職セミナー及びスタッフ研修会を開催出来るよう準備していく。

【部会名：日中活動部会】

1 これまで検討した課題への取組みについて

日中活動部会は、これまで工賃検討部会として工賃向上に関する課題検討を行ってきたが、事業所の授産製品の生産にかかわる課題、販路開拓、販売促進等にかかる課題を検討してきた中で、その他の日中活動における課題が見え隠れしていたものを広範にとらえて検討するため、日中活動部会と名称を改めたものである。

(1)

課題	これまで事業所内で抱えていた日中活動事業所内の課題を洗い出し、整理する
取組み	4月、6月に課題を抽出し、整理を行った。 4月 各事業所から事前に課題をまとめてきたものを「工賃・生産」「利用者支援」「その他」に整理した。 6月 4月に行った調査だけでは整理できなかったもので、更に具体的な課題として各自より抽出、整理した。 「環境設備」「職員間コミュニケーション」「職員の育成」「制度」「就労」「職員処遇」「利用者の高齢化」「作業工賃」「利用者支援」「余暇」「職員の支援」に分類した。
評価	障害者自立支援法（現：障害者総合支援法）により、「就労・自立」面の強化が図られ、就労者数や工賃向上の達成など、数字が成果として現れる面が評価される傾向が強まってきた現状から、これまで拾えていなかった課題をようやく整理し始めることができた。 しかし、課題が多岐にわたること、事業所の特色が違う中で統一した見解を導き出すことへの困難さ、など一事業所の責任・力量だけでは片づけられない課題をどのように前に進めていくのかの難しさも同時に明らかになった。

(2)

課題	利用者の高齢化について
取組み	9月 利用者の高齢化について拡大学習会 工房ヒューマンから65歳以上の利用者を迎えて、高齢期を迎えて以降に作業所を利用する目的などの話を伺った。 11月 介護保険について基礎知識拡大学習会 介護保険に関する基礎知識の学習会を行った。
評価	9月の学習会では、自身が希望すれば、65歳を超えていようとも生きがいを求めて働きたいとされる当事者の声を聞くことができた。「障害」から「介護保険」への移行が本人の希望を無視した機械的なものであっては困るが、白か黒かではなく、生活面では介護保険を活用するなど柔軟な活用が望ましい。 ちょうど自立支援協議会で65歳プロジェクトが始まるので、今後はプロジェクトとリンクしながら進めていくことになった。

(3)

課題	利用者支援について
----	-----------

取組み	1 2 月 個別支援計画についての情報交換 利用者支援については、課題を抽出した中でも特に意見が多かった項目 取り掛かりとして利用者への支援の根幹となる個別支援計画にスポットを当てて 情報交換から行った。
評価	利用者への支援の在り方を明記する個別支援計画書は、様式が固定されていないた め、事業所によっては独自に改良を加えているところが多く、特色があるのが分か り参考になった。

2 部会の構成メンバー

機 関	団体名	担当者（☆部会長）
障がい者事業所	第1 ヒューマン	☆藤井・香田
	第2 ヒューマン	中村
	工房ヒューマン	大宮
	さつき障がい者作業所	久保
	第2 さつき障がい者作業所	松原
	就労支援センターみち	近藤
	ワークセンターくすのき	吉田
	ぷくぷくワールド	坂本
	コミュニティーキャンパス	濱田
	ブルーリボン・きらめき	下郡・布原
	サフラン	本宮
	ほほえみ	横田
	遊ゆうかぼちゃのお家	山口
	Nigella	笹川
障がい者授産製品常設展示販売店	HAPPY&SMILE	帆足

3 開催状況

定例会 : 毎月 第1月曜日開催

事務局会議 : 毎月 1回開催

4 今後の予定

利用者支援についての検討を継続していく

その後、抽出した課題に基づいて検討を進める

【部会名：医療課題検討部会】

1 これまで検討した課題への取組みについて

(1)

課題	入院時コミュニケーション事業について
取組み	部会内において27年度と28年度の7月末時点で支給に至った7ケースについて検証をおこなう。傾向としてはついている期間、支援時間も短く、主な付き添い者はグループホームの職員が多い。利用者の種別は療育の方が多かった。 医療側からの意見を参考に情報提供カード（吹田市障がい者入院時コミュニケーション支援事業兼用）のかたちが確定したことを部会からの了承を得る。兼用と記載している通り、入院時コミュニケーション支援事業のみの使用ではなく、市内において普段からの共通様式として広めていきたいため、利用が多かった居住支援部会にまずは配布している。
評価	事業の対象者は福祉サービスに繋がっている方になるが、そうでない対象外の人たちへの検討も引き続き行う必要がある。またサービスに繋がっていてもヘルパー事業所や作業所等からは職員を付き添いに割くことが難しいとの話もあがっている。しかし、元々がボランティアで持ち出していた事業所の補填と事業の利用のあった病院側への理解促進が目的であるため、新しく事業をつかいつらい部分はある。またコミュニケーション支援を目的としているが、パーソナル部分や介護部分の要求も強くある。入院日数>介入日数ではあるが、請求にあげている期間・時間と実際に付き添っている時間には差異が大きく出ている可能性がある。 あらかじめの支給がないため、つかえるのかがわかりづらく、利用者・事業所に対しての説明が難しい部分がある。そのため、周知をまだ十分にはおこなえていない。

(2)

課題	子どもの頃からのかかりつけ医の重要性について
取組み	相談支援部会の取り組みとして途切れない支援と重なる部分があり、医療課題検討部会としては医療側への障がい者への理解の取り組みと医療と福祉が連携して取り組めることの見直しをおこなっている。 また障がい支援区分の認定調査用医師の意見書の依頼が精神科に集中している可能性が高いため、27年度の医師意見書記載状況の請求ベースの調査結果を確認し、課題の見直しと解決策を検討中。
評価	部会発足前のアンケート結果にはかかりつけ医を持っていない回答が多く、特に療育の方は医療と離れがちになりやすい。小さい頃から慣れ始めることが大事であり、家族への発信は必要である。けれど、家族も福祉サービスのつかい方をあまり知らないこと・障がいがあるとはいえ、健康な時にわざわざ受診を継続していく煩わしさやライフサイクルの中で担当部署や担当者かわり、トータルで相談できるところがなく、家族ケアも十分でない等の問題もある。 今後は教育側と医療側を絡めた家族へのアプローチ方法がないかも検討していく。

(3)

課題	病院側への障がい者理解への促進について
取り組み	済生会吹田病院の取り組みとして、地域包括の方に救急・外来・受診からの入院までの経緯や意見交換を交える等、病院を知ってもらう機会として年に3回程院内のガイドがおこなわれている。その取り組みを障がい版として平成29年2月におこなうこととなった。取り組みの内容について済生会吹田病院と打ち合わせ中である。
評価	病院側も状態が悪くなるまでなぜ診察に来ないかの疑問を持っている。けれど、障がいを持つ方の中には病院に行くのもイヤという事情はあまり知られていない。また障がいに対して触れる機会が少ないためか、どう接していいかがわからずにイメージばかりが先行してしまい、受け入れに対しての不安が膨らんでいる状態である。部会構成員の協力を得ながら、まずは済生会吹田病院をかわきりに今後も医療従事者への理解促進を進めていく。 また医療側だけでなく、今後は障がいを持つ当事者の方にも病院がこわいところではないことをわかってもらえるような機会をつくる工夫も考えていく必要がある。

2 部会の構成メンバー

機 関	団体名	担当者（☆部会長）
医療機関	吹田市医師会	☆角谷 岳朗
	吹田市歯科医師会	千原 耕治
	済生会吹田病院	戸川 啓史
		川口 真里子
		尾上 淳子
	済生会千里病院	岩間 紀子
	大阪大学医学部附属病院	友國 領子
		福森 優司
	吹田市民病院	齊藤 健二
	吹田徳洲会病院	中尾 俊介
教育・児童機関	吹田支援学校	青木 宏之
大阪府	吹田保健所	門田 繁夫
吹田市	吹田市障がい福祉室	西本 真紀
ワーキングメンバー	エスペランサ	中山 恭子
	さつき福祉会	伊藤 成康
	ヘルパーステーション MAYO	仁木 恵美
	ねばーらんど	足立 雅美
	北千里以和貴	信田 涼
	吹田市障がい福祉室	景山 昭宏

3 開催状況

年 4 回 第 1 水曜日

4 今後の予定

- ・事業と情報提供カードの周知方法の検討
- ・事業の分析・検証
- ・家族へかかりつけ医の重要性を説くアプローチ方法の検討
- ・事業の対象外となってしまう人たちへの支援をどうしていくかの検討
- ・意見書作成の協力医を増やしていくための取り組み方法の検討

【部会名：当事者部会準備会】

1 これまで検討した課題への取組みについて

(1)

課題	多様な障害当事者の部会参画を促進する
取組み	交流会 手ぶらで気軽にバーベキュー大会
評価	気軽な気持ちで参加しやすい雰囲気を感じたイベント行ったことで、しゃべり場とはまた違った空気感で交流することができた。

(2)

課題	日常生活全般における情報交換
取組み	障害のあるひとのしゃべり場
評価	障がい当事者が地域生活で直面するさまざまな問題や課題の解決に向けた情報交換を行った。吹田で行われるイベントの紹介・選挙時の投票での工夫についてリレートーク形式で意見を出し合った。

(3)

課題	当事者の視点に立ったバリアフリーなまちづくり
取組み	みんなのまちのしらべ隊
評価	行政も民間事業所もバリアフリーの普及・啓発を掲げるが、障がい種別が異なれば必要な配慮が変わってくる。今回は3障害で現地調査及び意見交換ができたことは大きく、部会としても新たなバリアの発見にもつながった。

2 部会の構成メンバー ☆は会長

☆赤尾・池田・細田・宇都・波那本・福西・柳田・山口(のぞみ福祉会シード)・景山(障がい福祉室)

3 開催状況

毎月第3木曜日

4 今後の予定

平成28年度全体研修会主管

【部会名：精神障がい者支援部会準備会】

1 これまで検討した課題への取組みについて

(1)

課題	① 実際に精神障がい者の使える資源が少ないこと、また福祉サービスの情報が届いていないことで、必要であるのにサービスを使えない場合が多いことについての改善 ② 精神障がいの特性から支援が困難であると感じる事業者が多いことの改善
目的	相談支援事業所、居宅介護事業所、医療系サービス、クリニック等に聞き取りを実施し、精神障がい者により適切なサービスの情報を伝え、円滑な支援が行えるよう部会で取り組むべきことを一緒に考えてもらえるよう提案。
取組み	福祉サービスの事業者は自身の理解を深め支援の質を上げるために研修が必要だと感じているところが多かった。また、医療との連携が特に課題だと感じているようだったが、医療の側でももう少し自分たちを活用してもらうためにどうしたらよいかという思いがあることもわかった。そこで、部会では福祉と医療の連携を考えることと同時に研修など専門職向けのものを行うためにどうするか検討することを優先することになった。

(2)

課題	精神保健福祉ネットワーク会議と部会の位置づけ、課題の整理
目的	精神保健福祉ネットワーク会議が部会を兼ねるのではなく、これまで精神障がい者支援の経験が少ない事業所や、課題解決に必要なと思われる機関、事業所等に入ってもらい、話をしやすくするための適正な人数で会議を行うことを考え、ワーキングチームを中心に解決すべき課題ごとにフレキシブルに関係機関が集合して話し合うことを考えている。 また、ネットワーク会議は今までの連携を継続し、より専門的な話し合いのできる場として、主に地域移行とそれにまつわる課題を中心に提起していくことを念頭に、部会とは別に行うこととした。 ただし、課題解決にあたってネットワーク会議の構成だけで十分話し合える時には、ネットワーク会議をその課題解決のための部会のチームとすることも可能とする。特に、今年度の課題検討計画にあげた「③社会的入院の解消と退院するための地域づくり、一般市民への精神障がい者理解促進」についてはネットワーク会議において検討する課題の一つとなりうる。
取組み	ネットワーク会議が開かれるたびに準備会の報告を行い部会との位置づけと協力体制について話し合った。

(3)

課題	④多職種連携におけるコーディネートの役割を果たす基幹相談支援センターの充実
目的	今後も体制づくり（この部会では特に精神障がい者支援についての基幹の役割）について意見を出せる場に部会を活用する。

取組み	吹田市の相談支援体制自体が変わろうとしている。その動向も見ながら基幹相談支援センターの役割について話し合える部会にするには、どんな工夫が必要かを検討。
-----	---

2 部会の構成メンバー

(案) 医療機関（病院・診療所、クリニック・訪問看護・ACT）、相談支援（相談支援事業所・地域活動支援センター）、障害福祉サービス（居宅介護事業所・共同生活援助・生活介護・就労継続 B 型・自立訓練・就労移行・就業・生活支援センター・短期入所・）社会福祉協議会、大阪府吹田保健所、障がい当事者、ハローワーク

※すでに部会のある障害福祉サービス、障がい当事者については部会から代表を選任してもらう形で依頼した。ほぼ了解が得られた。

3 開催状況

ネットワーク会議のワーキング会議を 3 回に 1 回準備会として継続中。

9 月 16 日（金） 医療機関からの聞き取りについてのまとめ。

部会の構成について検討。

ネットワーク会議と部会との関係を整理。

12 月 2 日（金） 部会の構成機関で了解をもらったところ、まだのところを整理。

自立支援協議会への報告についてまとめる。

この部会から設置要領を作成。（別紙）

4 今後の予定

3 月 17 日（金） 第 1 回の部会について日時、議案の検討。

3.4 いずれも 10：00～12：00 吹田保健所にて開催

【部会名：就労支援部会 準備会】

1 これまで検討した課題への取組みについて

(1)

課題	就職者を出しても新しい利用者が入ってこない
取組み	市内就労移行支援事業所の合同パンフ“わーくさぼーと吹田”を作成し市役所 含め市内の公共施設や委託相談支援事業所、計画相談事業所等に配置してもら い「就職を希望する障害のある方に配布・案内してもらう
評価	次回の運営委員会および全体会で“わーくさぼーと吹田”を配布、内容に問題 がなければ市役所含め市内の公共施設や委託相談支援事業所、計画相談事業所 等に配置してもらう

2 部会の構成メンバー

【就労移行支援事業所】

- ・社会福祉法人 大阪市障害者福祉・スポーツ協会：大阪市立千里作業指導所
- ・社会福祉法人 コミュニティキャンパス：コミキャン就労総合センター
- ・社会福祉法人 ふくふく福祉会：就労移行支援センターpass
- ・社会福祉法人 さつき福祉会：就労支援センターみち
- ・株式会社 ティダ・グリーン：ジョブトレーニングセンターOSAKA
- ・株式会社 誠栄：吹田誠翔園
- ・社会福祉法人 のぞみ福祉会：のぞみ共同作業所

【就労相談支援機関】

- ・すいた障がい者就業・生活支援センター Suitable

3 開催状況

- ・月例での開催だが、集まりが悪くなってきている

4 こんご よてい 今後の予定

【部会名：通学支援検討プロジェクト】

1 これまで検討した課題への取組みについて

(1)

課題	通学支援の必要性等、実態を把握し、制度の必要性及び対象について検討していく。
取組み	① 平成 28 年 4 月～5 月 吹田支援学校・摂津支援学校・箕面支援学校の家族を対象に「子どもたちの通学支援等に関わるアンケート」を実施。（回収状況：吹田支援学校 222 名中 178 名、摂津支援学校 84 名中 68 名、箕面支援学校 31 名） ② 平成 28 年 6 月～7 月 地域の小学校に関しては、支援学級に在籍しながら、保護者等の付添いが必要な児童・生徒を対象に「支援学級在籍児童・生徒に係わる登下校時の付添い調査」を実施。（回収状況 92 名）※教職員対象の調査 ③ 平成 28 年 8 月～12 月 「子ども通学支援等に関わるアンケート」及び「支援学級在籍児童・生徒に係わる登下校時の付添い調査」の集計を行い、通学支援に対するニーズ把握、課題の整理、方向性を確認。 ④ 平成 28 年 1 月 23 日吹田市自立支援協議会運営委員会、同年 2 月 6 日吹田市自立支援協議会全体会で、通学支援に対する一定の提案をする。 ※引き続き、議論していく内容も含めて提案を行う。
評価	アンケートや調査を基に通学支援検討プロジェクトで議論し、通学支援に伴うへ

	ルパー派遣の提案を一定まとめることができた。（別紙の提案資料参照）ただ、医療的ケアを伴う児童の通学支援については、車両の確保や支援者の資格（看護師等医療的ケアが可能な支援者に限る）などの大きな課題があるため、他市町村の支援状況等を把握した上で、再度通学支援検討プロジェクトで検討していく必要がある。
--	--

2 部会の構成メンバー

生活支援センターあおぞら	柏木	吹田支援学校	若松
地域生活支援センターめい	仁木	箕面支援学校	藤嶋
地域生活支援センターめい	大西	指導室	杉山
ケアステーションふくちゃん	福西	指導室	松本
コスモス吹田	富士野	障がい福祉室	景山
かすみそう	渡辺	障がい福祉室	榎本
千里丘デイサービス	谷口	内本町地域保健福祉センター	小松

3 開催状況

平成 28 年 2 月～平成 28 年 12 月の期間（月 1 回）

4 今後の予定

医療的ケアを伴う児童の通学支援についての課題が残っているため、引き続き通学支援検討プロジェクトを継続していく。（概ね月 1 回）

【部会名：介護保険移行課題検討プロジェクト】

1 これまで検討した課題への取組みについて

(1)

課題	障がい福祉サービスの利用者であっても、65歳になり介護保険の対象者（要介護・要支援認定を受ける者）になると、介護保険サービスの利用が優先とされている。「作業所とデイサービスの活動内容のギャップ」、「サービス移行による一割負担」、「相談支援専門員からケアマネージャーへの引き継ぎ」、「高齢者の関係機関における障がい理解」等、様々な課題が上げられる
取組み	まずはプロジェクトチームメンバーで、介護保険サービスに移行した事例等を通じ、介護保険移行に関する課題を共有。
評価	

2 部会の構成メンバー

北千里以和貴	稲葉	当事者部会準備会	細田
◎ コスモス吹田	富士野	亥の子谷地域包括支援センター	北川
○ あおぞら	伊藤	千里NT地域保健福祉センター	森田
○ 第1ヒューマン	藤井	社会福祉協議会	長谷川
きらめき	布原	障がい福祉室（支給決定）	中井
亥の子谷デイサービスセンター	益田	障がい福祉室（事務局）	景山
あすーる吹田	菊澤	障がい福祉室（事務局）	西本

◎リーダー ○サブリーダー

3 開催状況

平成28年12月22日（木）第1回会議を開催。

今後の開催：年4回（3か月に1回）

4 今後の予定

居宅介護等サービスにおける課題の共有を行う。